



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第28回 日本人、最高！

BI 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

先日、某航空会社に勤務する3人の客室乗務員とその関係者2人、合計5人のインド女性を連れて、日帰りで富士山近くの山中湖まで遊びに行っていました。こう書くと、

「美人のスチュワーデスさんたちと一緒に富士山見物なんて、優雅ですねえ」

と言われてしまうかも知れませんが、実はこれが優雅とは正反対の、とんでもなくハードな旅でした。

そもそも、この旅は、計画段階から「いいかげん」というか、良くも悪くもインド的な行き当たりバッタリ感にあふれていたのです。インドにおける私の親友はベテラン客室乗務員、むかしの言葉でいうところのスチュワーデスさんなのですが、その彼女がメールで、

「今度の東京行きフライトは、帰りの便まで2日間のお休みがあるから、ぜひ富士山を間近に見たいの。こっちは3人で行くからバスの予約をお願いします。ママも一緒に行ってくださいね！」

と、いきなり連絡してきたのは、彼女たちが日本に到着する3日前のことでした。

あわててバスツアーを探してみましたが、間際すぎてすべて売り切れ。しかも、旅の前日になって参加者が3人から5人に増えるというハプニングもあったのですが、最終的には、どうにかこうにか山中湖方面行きの長距離バスの席が取れました。

さて、旅の当日。私たちは朝8時半に上野駅で集合し、そこからバスの発着所へと向かうはず……だったのですが……約束の場所で待てど暮らせど、5人組はあらわれません。

彼女たちが泊まっている成田から上野までは、電車で1本。間違えたくても間違えようがない超簡単ルートです。やきもきしていると、知らない紳士から携帯に電話が入りました。いわく、

「今しがた、市川駅でインド人のお嬢さんたちから声をかけられました。8時半までに上野に行かなければならないとおっしゃっていましたが、とても無理です。一番早く行く方法

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



を教え、電車にお乗せしましたが、どんなに早くても上野着は9時を過ぎてしまいます。お力になれず、ほんとうに申し訳ありません」

と、まるでご自分に非があるかのように気の毒がってくださいました。

一体どこでどうやって市川へ行ってしまったのかは不明ですが、ともあれ親切な紳士のおかげで彼女たちはルートの間違いを修正し、あらためて上野に向かって様子。私は心からお礼を言って電話を切りました。

実は、こんなこともあろうかと、私は集合時刻を通常より45分ほど早く設定しておいたのです。つまり、9時15分までに彼女たちが上野駅にあらわれれば、まずまず楽勝でバスに乗れるのです。ところが、そこへさらに知らない女性から電話がかかってきました。いわく、

「インドのかたが、電車に乗り間違えたらしく困り果てていらっしやだったので、上野への行き方をお教えしました。いちばん早く着けそうな方法を考えて電車にお乗せしましたが、上野到着は、どんなに早くても9時20分を過ぎてしまうと思います。大丈夫でしょうか。それに、私は英語が下手なので、うまく話が伝わっていなかったとしたらゴメンナサイ」

なんと、5人組はまたしてもどこかで道に迷っているらしい。しかも、またまた知らない方がえらく心配してくださっています。私は再びペコペコ頭を下げながら電話を切り、なすすべもなく改札に身をもたれかけて、ただ待つしかありませんでした。

さらに数十分が経過。そこへ、両手に抱えきれないほどのお土産を抱え、悪びれた様子もなくニコニコ笑いながらドタバタ駆けて来る5人の姿が見えました。

「こらっ、もっと真剣に走れっ！ そんな走り方じゃバスに間に合わない！」

と、私は英語とヒンディー語をごちゃ混ぜにした“ヒングリッシュ”で叫びながら、普段まったく運動をしたことがないらしい5人をなかば引きずるようにして、バスターミナルへ猛ダッシュ。

走って走って、10時10分発のバスが出発する1分前によくバス乗り場に到着し、飛び乗ったまさにその瞬間、時刻表どおりにバスが出ていました。

ここまでで私は既にゲツリするほど疲れ果てていたのですが、5人組はといえば、バスの中で一息つきながら、

「さっきの紳士と女性は、いい人たちだったわねえ。日本人って本当に親切！」

「それに、日本のバスは1分も遅れないんだ。すごーい！」

と、自分たちが遅れたことに関してはケロリと忘れて能天気には笑っています。その顔を見た瞬間、なんだか怒るのがバカバカしくなってしまう、

「でしょ、でしょ？ 日本人はね、世界でいちばん親切な民族なのよ」

と胸を張った私なのでした。

そうこうするうちに、下車予定の忍野八海(おしのはっかい)に到着。ここは透明度の高い八つの池でつとに有名な観光地です。

バスを降りて3分ほど歩けば最初の池に着くのですが、その、たった3分のあいだに、今度は5人のうちの1人が行方不明になってしまいました。どうやら写真撮影に夢中になったあまり、あさっての方向へ歩いて行ってしまったらしいのです。

今度は、皆で彼女の名前を呼びかけながら、あたりを搜索。すると今度も、たまたま居合わせた観光客(日本人)が何人も協力してくださったおかげで、迷子はすぐに見つかりました。

池を見たあとは、お蕎麦屋さんで昼食。ここでは、箸の使い方がわからない人や、付

け汁を蕎麦の上にかけてしまう人が続出しましたが、そのたびに近くのテーブルから声がかかり、

「箸はね、こうやって持つのよ」

「蕎麦を付け汁に付けて食べるの」

と、親切な指導が入ります。さらには、

「これ、私が使っていた扇子なんですけど、失礼でなければ記念にどうぞ……」

と素敵な扇をプレゼントしてくれる女性まで現われて、5人組は大感激。

その直後に訪ねたワインショップでは、買い物もしないのに何種類ものワインを試飲させていただいたうえ、次の目的地である「花の都公園」というフラワーガーデンまで歩いて行くと告げたところ、

「その距離を歩くのは大変ですよ！ 汚ない車でよろしければ、お送りします」

と、店員さん(とても可愛い女性でした)が、わざわざ車を出してくださったり。

そうやってたどり着いたフラワーガーデンでは、5人組の1人(さきほど忍野八海で迷子になったのと同じ人)が、今度は財布やカードやパスポートなど全財産が入ったバッグを落としてしまい、一瞬真っ青になったものの、たまたまそれを拾った観光客の方がすぐに事務所に届けてくださったために、無事に持ち主の手に戻ったり。

……とまあ、どこへ行っても見知らぬ人たちの温かい手が次々に差し伸べられて、まるで何かの力に助けられているような幸運がつかまりました。

さらに、特筆すべきことがもうひとつ。実は、この日は朝から天気が悪く、忍野八海でバスを降りてからというもの、どこへ行っても肝心の富士山の姿は全く見えなかったのです。

ところが最後の最後、フラワーガーデンから山中湖への山道を、歩いて歩いて、汗だくになって湖畔にたどり着いたその瞬間、にわかに一陣の風が吹き、ザワザワという気配と共に雲が流されて、カーテンコールに呼び出された女優のように富士の霊峰がいきなりその全貌をあらわしたではありませんか。帰りのバスに乗り込む、わずか15分前の出来事でした。

まるで大がかりなマジックショーでも見ているような劇的なエンディングに、インド人5人組は鳥肌を立てながら感動していました。きっと、彼女たちにとって一生忘れられない旅になったことでしょう。

「日本、大好き！ 日本人、最高！」

彼女たちに心からそう言わせてくれた、大勢のゆきずりの皆さま、その節は本当にありがとうございました。私も、今まで以上に、日本と日本人が大好きになりました。

◀ [第27回 人間と占い](#) [第29回 縁の下をささえる人々](#) ▶

山田 真美（やまだ・まみ） プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。

1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

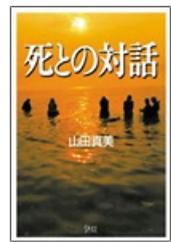
主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



車の処分にお困りですか？

廃車王は事故車や車検切れ車も買取ります 査定・引取り・手続き無料
料でラクラク！ haishaou.comへ進む



▲このページの先頭へ



© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ふっふっ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう！](#)

[たいけんしてみよう！](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん！](#)

[ふっふっクイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

日本が国の借金で破綻しない理由

1049兆円の借金とは何なのか？その真相に迫る。 keieikagakupub.comへ進む

